

平成 26 年度第 2 回春日井市廃棄物減量等推進審議会議事録

1 開催日時 平成 26 年 12 月 16 日（火曜日）午前 10 時 00 分～11 時 00 分

2 開催場所 304・305 会議室

3 出席者

【会長】学 識 経 験 者 行本 正雄（中部大学工学部教授）

【副会長】市 民 団 体 村瀬 よしゑ（春日井市婦人会協議会）

【委員】市 民 団 体 戸田 幸子（春日井市消費者グループなずなの会）

市 民 樋口 祐子（公募）

事 業 者 安達 昭夫（春日井商工会議所）

宮川 歩（三和清掃株式会社）

高木 隆行（株式会社清水屋）

学 識 経 験 者 広川 雄三（3R 推進マイスター）

武田 誠（中部大学工学部教授）

【事務局】環 境 部 長 長江 雅至

ごみ減量推進課長 鈴木 久司

清 掃 事 業 所 長 長江 勝郎

ク リ ー ン セ ン タ ー 所 長 杉山 茂樹

ごみ減量推進課

課 長 補 佐 児島 由典

ごみ減量担当主査 宮寄 英介

ごみ減量担当技師 小島 知

4 議 題

(1) 燃やせるごみ減量啓発について

(2) その他

5 傍聴者 0名

6 会議資料 別添のとおり

7 議事内容

(1) 開会

事務局 開会あいさつ

田中委員が辞任され、後任を高木委員にお願いしました。

春日井市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則第5条第1項の規定により、以降の議事進行は行本会長にお願いします。

行本会長 初めに、事務局から本日の資料確認をお願いします。

事務局 ～配付資料について確認～

行本会長 では、次第に従って議事を進めます。

なお、本日の会議は、過半数の委員が出席しており、春日井市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行規則第5条第2項の規定により、有効であることを報告する。

(2) 議題1 燃やせるごみ減量啓発について

行本会長 議題1「燃やせるごみ減量啓発」について、事務局から説明をお願いします。

事務局 ～資料に基づき、議題1「燃やせるごみ減量啓発」について説明～

行本会長 事務局から、資料について説明がありました。何か意見、質問はありますか。

戸田委員 資料について審議するにあたり、ページごとに審議していったらどうか。

各委員 異議なし。

行本会長 では、表紙から意見はありますか。

広川委員 「ごみ減量ガイドブック」とあるが、どの範囲まで記述するのか。たとえば、生ごみだけに限定するのであれば、「生ごみ減量ガイドブック」でいいのではないか。

戸田委員 題字についてこのままでは全体を見てバランスが悪いので、文字を下げる等、バランスを良くした方が良い。

樋口委員 表紙からでは、このパンフレットは何が言いたいのか、何が作りたいのか分からない。燃やせるごみの減量なのか、生ごみの減量だけなのか。ごみの減量ではあまりにも範囲が広すぎる。

村瀬委員 確かに範囲が大きすぎる。

樋口委員 生ごみの減量でいいのではないか。内容を見ると、古紙類についての記述もあるが、生ごみについての記述が一番多い。どこがポイントなのか分かりにくい。

行本会長 続いて1ページについて、意見はありますか。

樋口委員 何のために啓発リーフレットを作るのか。春日井市の燃やせるごみの内、生ごみの割合はどうなのか。生ごみの量が増えている推移はないのか。

事務局 燃やせるごみの中で約40%ほどが生ごみです。

樋口委員 燃やせるごみの中には、ビデオテープなどもあり、平成25年4月からの分別変更で、汚れたプラスチック製容器包装や30cm以下のプラスチック製品も含まれるため、生ごみよりもこういったプラスチックが多いのではないかと思っていた。

広川委員 政令指定都市を含めた市町村で家庭系の生ごみだけを分析したのは京都市だけである。クリーンセンターの組成分析での数字は、家庭系と事業系のごみが混ざっているので正確な数字とはいえないので30~40%でいいのではないか。家庭ごみだけの統計を出すのは難しい。

行本会長 重さの比率で40%です。

広川委員 組成分析で食品系残渣が20%入っていた場合、これは乾物重量であり、全部同じような水分含有量ではないのでそれを元の数字に戻すのは難しい。おおよその話、それくらいしかできない。

宮川委員 平成25年度の「資源・ごみの分別変更開始」の色がグラフの「燃やせるごみ」の線と同じ赤色なので、平成25年度の下に書くか色を変えた方がいい。またこのグラフでは、見た人がどれくらい燃やせるごみが多いかあまり感じない。ここがすごく大変なんだということが分からない、どこをポイントとしているのか漠然としていて分からない。

戸田委員 「資源・ごみの分別変更開始」の下に点線を縦に入れて矢印で示すとか。

樋口委員 グラフに平成22年度が2つあるのはなぜか。

事務局 片方は記載間違いで、平成24年度の左側は平成23年度が正しいので修正をお願いします。

広川委員 載せるかどうかは別として、国の目標値では、「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」を足した量について、平成32年度には一日一人当たりの排出量を平成12年度と比較して約25%減の500gにするとしており、これを意識する必要がある。

高木委員 このグラフでは見た人が危機感を持たない。燃やせるごみの量が横ばいで増えていないので安心するのではないか。目標値からこれだけオーバーしている、他の自治体と比べたらどうなのか等、春日井市はこれだけ危機的状況だと訴えるようなグラフにした方が効果的ではないか。

広川委員 訴え方の問題です。

樋口委員 資源分別が変わって、「燃やせるごみ」が増えているのだと思った。小さいプラスチックが燃やせるごみになったので、燃やせるごみが増えるのかと思ったが、減っている。一日3g減らすと一年で約1kg減らしたことになる、これはすごいことだ。今回の広報を見ると推計で平成26年度は少し増えるけどあまり変わらない。やはり危機感を感じない。

行本会長 続いて2ページについて意見はありますか。

戸田委員 日本語の解釈について、最近の人は「！」等の感嘆符を良く使う習慣あるが2ページの上段の吹き出しで「かな」という言葉に「！」を付けるのはおかしい。今の人は使うのかもしれないが、こうしたほうがいいという内容で「！」を付けるのであれば「かな」という曖昧な表現でない方がいい。

広川委員 文章を否定文で書くのか肯定文で書くのか。その辺は合意で決めたらどうか。

戸田委員 この文章の中は絵に描かれている女性が言っているのも、彼女の思いだと思う。

宮川委員 2ページの上段は、何が言いたいのか分からない。なぜ左側に描かれた女性は、白菜を2つ持っているのに、右側の女性が描かれた文章ではキャベツのことが記載されているのか。

武田委員 絵がリンクしていないし、関連していない。

宮川委員 同じ服を着ているので同じ人で同じ日について描かれているのかと思ったが、リンクしていない。

戸田委員 よく見ると右も左も同じなので、両方は要らないのではないかと。
行本会長 続いて3ページについて意見はありますか。
各委員 特になし。
行本会長 続いて4ページについて意見はありますか。
戸田委員 委員の皆さんにお聞きしますが、最近の人は三角コーナーを使っているのか。
宮川委員 普通は使っているのではないかと。
樋口委員 最近、流しの中に受け皿があるものもある。
戸田委員 流しの中に受け皿があるタイプは、ごみが水を多く含むので、三角コーナーの方が良いのではないかと。三角コーナーの方が生ごみに水がかからない。
広川委員 「風通しの良い場所で乾かす」という方法はすごく生ごみの量が減る。生ごみを太陽と風で乾かすというもので、かごに虫除けネットを付ける方法で私も実際にやっている。他にも取り組んでいる人がいるが、私と同じようにネットを掛けてやるという人がいない。発想としてはマンションやアパートで暮らしている方で、堆肥を作っても使い道が無い方にお勧めである。このアイディアは京都市のコンテストで賞を取った。埼玉県と奈良県生駒市でも推奨されている。生ごみの水分を手で絞らなくていい、ただ太陽光と風で乾かすだけです。
宮川委員 最初は水がどぼどぼ出たりするのではないかと。
広川委員 下に新聞紙や受け皿を敷けばいい。必要なのは太陽と風だけです。
宮川委員 臭いはするかと。
広川委員 あまりしない。ざるに洗濯ネットを被せて桶などに吊るす方法で、1人もしくは2人暮らしの生ごみの量の少ない家庭ににお勧めです。
戸田委員 材料費はどれくらいかと。
広川委員 200円。ざるも洗濯ネットも100円ショップで売っている。洗濯ネットも耐久性がある。
戸田委員 「野菜や果物は、皮をむいてから洗う！」について、皮をむいてから洗う果物はあるのか。野菜についてもたまねぎやじゃがいもなど皮をむいてから洗った方がいいものもあるが、果物はどうなのか。りんごを塩水

につけることはあるが。

宮川委員 果物をなくしたらということですね。

戸田委員 野菜は皮をむいてから洗うと言いますか。野菜といわれれば葉物を想像しませんか。皮をむく野菜は何がありますか。

宮川委員 人参とか名前を書いたほうがいいということですね。

戸田委員 野菜といわれれば葉物を想像しませんかということです。

宮川委員 この絵を見れば分かる。

戸田委員 野菜は皮をむいてから洗うということがわかりますか。

宮川委員 これなら分かる。震災のときに二回洗うのは水がもったいないので、泥が付いたまま皮をむいて洗うという話があった。

戸田委員 普通の野菜についてもそういう想像をするのかと。

宮川委員 野菜を具体的に書いたらということですか。

武田委員 これを無くしたらどうですか。

戸田委員 少なくとも果物に関しては疑問を持った。

宮川委員 ここを無くした方がいいということですか。

広川委員 なるべく全体の構成を考えてもらって、デザイナーの思いもあるかもしれない。

宮川委員 各ページ3つずつ3段書きで取り組む内容を書かなければいけないのか。

戸田委員 たまねぎやじゃがいもは皮をむいて洗うのはよく分かる。その他、泥の付いた野菜の例としてさつまいもの絵が描かれているが、店で買っている人は土の付いたさつまいもなど見ることはあるのか。現状に即さないのではないか。

行本会長 続いて、5ページ、6ページについて意見はありますか。

広川委員 6ページのEM菌という言葉は一社特名の表現になるので、具体的な商品名で書くのはいかがなものか。

事務局 例えば、なんとか発酵菌とかそういう言い方ですか。

行本会長 あまり細かい名前、難しい言葉は使わないほうがいい。

広川委員 意見のある方はどうぞ。

村瀬委員 婦人会では、EM菌としてぼかし作り講座をエコメッセでずっと続けて

やっているし、地域でEM菌でごみを減らしましょうとずっとやっている。

広川委員 一種類しかないなら理解できるが、他の選択肢を受講者に選ばせるような講座をやっていたかかないといけないのでは。EM研究所のものを使ってくださいというのは言い過ぎではないか。

村瀬委員 農協でもEM菌を売るようになった。

広川委員 商売で売っているならいい。陳列棚に並べて売っているのだから。

村瀬委員 今後検討しないとイケない。

事務局 リーフレットは、市役所が作るものなので、固有名詞は避けるべきということですね。

広川委員 わざわざメーカー名も言わなくてもいいのでは。

事務局 なんとか発酵菌など一般的な名前にとということですね。

広川委員 乳酸菌系の発酵菌とか。

戸田委員 長い名前になる。それと、嫌気性の微生物がEM菌という訳ではない。

事務局 そこは訂正します。

広川委員 5ページの「コンポストとは」のところだが、この表現ではコンポスト＝容器のことになる。正しくはコンポスト＝堆肥である。したがって、「コンポストとは好気性の微生物の力を利用して、生ごみを分解して作る堆肥のことです。」であれば良い。コンポストとは出来上がった堆肥のことで、容器ではない。

事務局 コンポスターだと容器になりますか。

広川委員 そうです。

戸田委員 「コンポストは堆肥のことです」にしたらどうか。

武田委員 5ページと6ページの違いが良く分からない。

広川委員 5ページは空気を好きな微生物を使った堆肥作り。6ページは空気の嫌いな微生物を使った中間処理についての記述である。堆肥はこれではできません。

武田委員 両方載せる必要があるのか。

広川委員 様々な手法があり、色々な人達が取り組んでいることを意識したのではないか。

- 戸田委員 最後の雑がみのところについて、雑がみは雑誌を除くのに出し方のところに雑誌と一緒に出してでもいいと書いてあるが、それでいいのか。
- 事務局 春日井市の分類として分けるときに、新聞紙・雑誌・雑がみ・段ボール・牛乳パックという言い方をしています。再生する過程で、雑誌と雑がみは一緒でも良い。そこは矛盾しているところだが、雑誌と雑がみは区分はしているが一緒に出しても良いということです。
- 広川委員 他市の例を調べたらどうか。ミックスペーパーと呼んでいるところもある。
- 戸田委員 この点は非常に疑問に感じた。
他にも「雑がみ」を資源として出しましょう」のところで、「様々なもの」ではなく「様々な雑がみ」にしたほうがいいのではないかな。
- 樋口委員 このページは文字が細かい。堆肥化について載せるのはいいが、「雑がみ」のところは、「資源・ごみの出し方便利帳」に載っている。同じ内容ならば必要ないので、堆肥化のところを大きくした方がいいのではないかな。春日井市では随時講座を行っているので、広報を見てぜひ参加してくださいという文章を付け加えたらどうか。
また、6ページのワンポイントの文章が冷たい内容ではないか。「出来た堆肥は畑や花壇の土に混ぜて有効利用しましょう」という内容にした方がいいのではないかな。
- 宮川委員 これだと後ろ向きに見える。
- 樋口委員 この内容では、作っただけでは意味がありませんというように捉えかねない。他にも一次処理の機器のところ、電気式生ごみ処理機の特徴の文章だけが丁寧語になっている。また、タライ、エサはカタカナになっているが外来語ではないのでひらがなでいいと思う。その他、「少しづつ」は「少しずつ」の間違いではないのか。
- 戸田委員 全体に細かい。もう少し見やすくした方が良くはないかな。
- 宮川委員 経験者のコメントのところで、自作のコンポストをコンポスター、コンポスト容器にすればいいのではないかな。
- 戸田委員 6ページについて、細かく書くとこれが全てかと思われる。さっぱりと書いたほうがいい。また、説明文の内容だが、タライにこだわる必要な

い、タライを抜いたらどうか。他にも、①では油かすが団子状のイラストになっているが固形物ではないし、④のところで、「生ごみと一時処理剤 20 g を入れ」とあるが、数字を入れるなら生ごみの量も記述すべきではないか。

行本会長 続いて7ページについて意見はありますか。

広川委員 ずっと生ごみの内容を書いているのに、このチェックシートの下から6個は1～6ページに書いていないことが載っている。これはどうするのか。ペットボトル、古着、牛乳パックの内容は1～6ページには載っていない。

樋口委員 ごみ減量 15 か条のチェックシートなので下の方の内容もあってもいいと思うが、資源の日を固有名詞として使うのなら「」をつける。もしくは「資源回収に出している」という表現のほうがいいのではないか。

広川委員 「資源」ではなく「資源ごみ」。法律上は「資源ごみ」でなくてはいけない。

戸田委員 「資源の日」ならいいのではないか。

広川委員 決められた日ですよね。「収集日」に出すというのはいいい。

樋口委員 「回収日」にとか。

戸田委員 資源になるという思いがある。出したものがごみではなく資源になるのだと。「雑がみを資源として出している。」という表現は曖昧で、上の「資源の日に出している」と表現が違う。

広川委員 収集日、当日出すことを市民に頼もうとしているのか。分別を中心に物事を考えているのか。それで表現が変わってくる。

高木委員 小売店にはペットボトル、牛乳パック等の回収ボックスがあり、営業時間中ならいつでも出せる。これはかなり定着をしており、これも入れていただければ。

広川委員 受け取ったものは産廃になるのでは。持って行って産廃になるのを市役所が推奨するのはいけない。

行本会長 事務局にお願いしたいのは、まず表紙は焦点を絞れていない。生ごみに絞ったほうがいいのでは。表紙を変えないといけないのでは。

事務局 基本的には、燃やせるごみ減量と言っていますが、まず生ごみの減量を

推進したいというのがこのリーフレットです。ごみ減量とだけ書いてあると焦点が定まっていないという意見は分かります。表紙を変えないといけないとなると、5、6ページの下の雑がみについての内容は整合性を取れなくなると考えます。また、ごみ減量15か条の下6つも生ごみに焦点を当てるなら、項目を減らすか内容を変更するのか検討しなければいけないと考えます。

行本会長 今回の啓発リーフレットは細かい内容になっているので、他にも何か意見があれば12月22日の月曜日までに事務局へ連絡して下さい。

(3)議題4 その他

行本会長 最後に議題2「その他」とありますが何かありますか。

各委員 ～特に意見・質問なし～

行本会長 意見、質問は無いようなので、これにて閉会とする。

8 その他

上記のとおり平成26年度第2回廃棄物減量等推進審議会の議事経過及びその結果を明らかにするためにこの議事録を作成し、会長及び副会長が署名及び押印する。

平成27年 1月 27日

会 長 行本 正雄 (印)

副会長 村瀬 よしゑ (印)